

だれかの笑顔のために

『当たり前』の反対は？

「当たり前」の対義語は何だと思いますか。

正解は『有難い』とのことでした。



『当たり前』は、「有ることが常」、『有難い』は「有ることが難しい」という意味となりますので、「当たり前」の反対は「有難い」となるわけです。

これまで「当たり前」と思っていたことが、そうではないということにここ数年の出来事で皆が気づいた(考えた)と思っています。

10年前の2016年4月、熊本地震が発生しました。当時、私は菊水中学校の教頭として勤務していましたが、地震の影響で体育館の天井が落ち、音楽室入口の壁が崩れ、しばらく校舎が使用できなくなりました。その間、町の体育館が教室となりました。毎日、学校で授業をすることが当たり前だと思っていたところ、突然学校が使えなくなったのです。

そして、菊水小が開校し今の6年生が入学した年の4月、全国一斉にコロナ禍による臨時休校となりました。今度は、学校に行くことすらできなくなったのです。

それまで、「当たり前」だと思っていたことは、そうではなかったことに気づかされました。今、学校で教育活動が行えることが、本当に有難いことだと感じています。

6年生は、もうすぐ卒業式を迎えます。

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。翌日に卒業式が行われる予定だった宮城県気仙沼市立階上(はしかみ)中学校の卒業式が震災後の混乱の最中、予定より10日遅れて執り行われました。その卒業生代表の答辞には多くの国民が涙しました。

その答辞からも、日常の当たり前に感謝することの大切さについて考えさせられます。



<平成22年度 宮城県気仙沼市立階上(はしかみ)中学校 卒業証書授与式 卒業生答辞>

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を、五十七名揃って巣立つはずでした。

前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守っててください。必ず、よき社会人になります。私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表